

(様式第4号)

上田市地域情報化推進委員会 会議概要

1 審議会名	上田市地域情報化推進委員会
2 日時	令和2年7月30日 午後1時00分から午後3時00分まで
3 会場	市役所本庁舎 6階 大会議室
4 出席者	小林一樹会長、西入幸代副会長、井領明広委員、小駒はるみ委員、萱津理佳委員 小山陽三委員、中村和己委員、長谷川はるみ委員、水野泰雄委員、山本幸恵委員 藪井陽子オブザーバー（総務省信越総合通信局情報通信振興室長） 池内剛オブザーバー（総務省信越総合通信局情報通信振興室利用促進担当）
5 市側出席者	土屋市長、吉澤政策研究センター長、大矢政策研究センター副センター長、児玉マネージャー、中村政策研究センター係長、中村総務部長、腰原情報システム課長、市村情報システム課長補佐、鈴木情報システム課係長、武井情報システム課主査、村山情報システム課主事
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	8人 記者 3人
8 会議概要作成年月日	令和2年8月5日

協議事項等

1 開会（腰原課長）
2 人事通知書交付
3 市長あいさつ
4 自己紹介
5 会長・副会長の選出 会長 小林一樹委員 副会長 西入幸代委員
6 諮問 「上田市スマートシティ化推進計画」の策定について
7 協議事項 (1)「上田市スマートシティ化推進計画について」 ・資料に沿い、事務局から上田市スマートシティ化推進計画の策定について概要を説明 ・以降、協議 (委員) 市の行革を進めて行かないといけない中で今の段階はどのような感じなのか。 また、実際にデジタル化はどの程度実施しているのか。 (事務局) 行財政改革大綱は現在第三次までできて今年度で終了する。令和3年4月から第四次行財政改革大綱策定に入るが、審議会という組織を設けて8月末からスタートする。 今までも情報化についてはこのような委員会を通して進めてきたが、AI・RPA化については今後の課題でもあり、スマートシティ化の計画に合わせて行財政改革大綱と整合が取れるような形で進めていきたい。 (委員) 今回の審議会とは別のところで進めていくのか。 (事務局) 別の組織ではあるが、行財政改革大綱とスマートシティ化の計画、両方の整合性が取れるような形で進めていきたいと考えている。 (委員) 色々な他市へ視察に行った。市の内部から進めていかないと市民にも示しがつかないと職員からも言われている。 会議時にタブレットを使用しペーパーレス化等も始めているが、できることから始めていかなければいけない大きな課題となっているので、できることから始める。 実証実験もやりたいと希望がある所から進めて、一つでも成功体験、実証して成功していく部分を見せていく。技術的な話はできるが、実行してみても良かった事の積み重ねも大事である。

(委員) 他県の情報推進のアドバイザーもしているが成功例の中で守られている事が二つある。2兎追う者は1兎を得ず。テーマが広い中でRPA一つを行政でするにしても数年かかる課題なので着手できるところから絞って進めることが大事である。

ITの問題ではなく人の心の問題である。いろんな方々のダブルスタンダードがある。紙ベースの方がいい人もデジタル化の方がいい人もいるが、90歳の方はパソコンが使えない実状もある。

我々のやろうとしていることは90歳の方にとっては不幸なことだがデジタル化での効率化を教えるなど、心のゴールを一致させることが大事。90歳の方はタブレット等使えない為心のゴール設定が必要。

質問は、スマート推進計画の策定がこのプロジェクトのお題目だと思うが、計画策定が目的になっていないか。先の目的があつての計画策定だと思う。認識としては最先端活用プロジェクトの個プロジェクトという認識で合っているか。親プロジェクトの絵的にはまちづくり計画のプロジェクトの一環という認識でいいのか。構造を知りたい。

(事務局) 第二次上田市総合計画まちづくり計画の中には上田市の方向性が示されていて、その中の一つに最先端技術を活用した行政を進めていくとなっている。

具体的に進める指針としてスマートシティ化計画をまとめたいと考えている。

実施することを具体的に列挙するというよりは、進んでいく方向性を具体的に盛り込んだ計画としてまとめていきたいと考えている。

(委員) テーマを絞ってはどうかという話と心のゴールという話に関してはどうか。

(事務局) 民間含め他の自治体は進んでいるようだが、上田市はこれまでセキュリティに特化する形で内部の情報整理を進めてきて、使いやすいものにはなっていない。新庁舎ができる機会に、使いやすい、また市民の皆さんにも情報提供可能なシステムへ切り替えていくことと、市民の生活を豊かに便利にできる仕組みを取り入れていく。

スマートシティ化計画としてやれるものは入れていきたい。チャレンジとして、実証実験も含め上田市の課題、スマートシティ化の挑戦と転換については求めていきたい。5年という限られた時間の中ということもあり、今の技術のままでいくのか、大幅に変わって来るとも思うので、技術革新にも対応して進んでいくという中身にしたい。

(委員) 個別政策の選択基準はどのような基準で選ばれたものなのか、市民が望んでいるものなのか、スマートシティ構想を進めるために並べているのか。市民にこれが通じるかどうか。

(事務局) 可能性のあるものはすべて列挙した形になっている。ほかの市の情報の中からキーワードを拾い上げて可能性として表に落としているだけで全てを盛り込む訳ではない。

基本の住民サービス、行政の効率化、スマートシティ化への挑戦という方針は大きく変わる可能性は低い。現段階で拾えるものを拾っているだけなので、委員の皆様からの意見もいただいた中で他にも入れていく。

(委員) 11月の計画案が出るまでに具体的なものがでてくるということか。

(事務局) この中でできるものもあると理解している。国のルールに乗っ取って取り組むべきものと行政の事務処理のもとに進めるものと市民の生活上の利便性を考えて進めるものと取捨選択後、事務局案として示すことを検討している。

(委員) 国という言葉が出てきたが、パッケージに無理に入れ込むのではなく、市民にとって必要なものを選択してもらいたい。

行政のスマート化と合わせて進めるということで大きなパッケージをもってこないとな

しいと思うが、無理矢理当てはめるやり方は避けていただきたい。

(事務局) マイナンバーを促進したり、官民データ活用など今回の計画に書いたから実行するというのではなく、方向性を示すものなので、住民の生活を豊かにさせることが当然の指標である。

(オブザーバー) 国としてはこのパッケージを使ってくださいという訳ではなく、上田市の課題や方向性に向かって何が使えるかをパッケージや支援策として示したい。

(委員) 予算はどのようにやっていくのか。

(事務局) まちづくり計画の実施計画に登載して方向性が認められ、予算要求実施していくものである。

まちづくり計画の中のプロジェクトという形で、最先端技術の活用プロジェクトは上田市として積極的に取り組んでいくが、取り組んでいく方向について諮問させてもらっている。

(委員) 今までたくさんの事業を見てきたが、イニシャルコストは国が支援しランニングコストや更新は地方自治体でということが非常に多い。不要なものを一度動かすと動かし続けていかないといけなくなるので、最初の段階で本当に必要な物なのか十分吟味してもらいたい。一つずつ丁寧にかつ具体的に計画、実施していくことが大切で、時間がない中なのでそれも選択肢の一つにしてもらいたい。

(事務局) 御指摘の通り、国から補助が出るとなると飛びつくくらいがあるが、情報化に限らず慎重に本当に必要なものを実施していく。場合によっては途中でも検証し、必要かどうかを検討することが必要だと考えている。

(委員) 並べられている計画全てができるとは思っていない。すぐには上田市もスマート化することも難しいと思う。行政の住民サービスのスマート化というところですが、紙ベースの方が良いという人もいると思う。

マイナンバーカードを持っていると行政サービスも進むということだが、上田市内のマイナンバーカード登録はどれくらいの割合なのか。進めていくにはここが基準になるかと思う。老若男女問わずマイナンバーカードの作成方法がわからなかったりタイミングを逃したりした方もいると思う。関心を持っている割合はどれくらいなのか。

行政のシステムの向上は大事だと思うが、市民が不安に考えていることや生活上必要としていることを防災減災含め考えて進めてもらいたい。コロナもあるし気象状況も不安定で、洪水や土砂災害もある。丸子エリアになりますが、高齢化も進み運転免許証の返納をされる方も増えている中でデマンド交通など市民が必要としているものを考慮して検討したうえで、高齢者でも使いやすいものにして頂きたい。

(事務局) マイナンバーカードの取得率は7月1日現在で14.4%である。

(事務局) 定額給付金の際に窓口が密になったのと、ポイント制も始まるため申請が進んでいるところではあるが、交付までに時間がかかる状態になっているので、まだ国と一緒にやっていく必要がある。

(事務局) 住基カードが失敗してマイナンバーカードに移行された。上田市は全国的にもなかなかマイナンバーカードの普及ができなかったが、定額給付金のお陰で上田市の申請率もかなり上がった。ポイントがつくサービスの登録にも毎日のように市民の方が訪れているし、

これから増えていくと思われる。

マイナンバーカードのメリットは何かというと、上田市は当初から印鑑証明書と住民票をコンビニで取れるサービスをやっている。できれば証明書の種類を増やしていきたいと考えている。国の方でも保険証や身分証明書の一元化を進める話もあり、さらに進んでいけば取得率も高くなると思うし、ICチップの空き領域を利用したサービスが提供できるようになればいいと思う。

しかし、個人情報が増えるのではないかと不安になる人も多いが、知っている限りセキュリティは強固なものになっている。

上田市出身の慶応義塾大学の手塚悟先生にも職員研修をして頂いたが、かなり強固なものになっているので、その点を理解して頂いてなんとか普及を進めたいと考えている。

昨年の台風被害の時にも様々な電話がかかってきて混乱した。現在は情報を取りに行くのに県や気象庁のシステム等に個別アクセスをする必要があるが、新庁舎では一元化できるようなシステムを構築していて、それができれば情報の集約や発表がスムーズにできるようになるのではないかと考えている。

(事務局) 政策研究センターの中での取り組みを紹介する。2019年4月に発足し、5つのテーマがある。

その一つでスーパーシティ、スマートシティ上田市にふさわしい支援制度を検討してきた。その中で、国土交通省の担当者が、良くない進め方は技術ばかりが先行すると、あまり成功はしないということである。課題から入り課題を解決する方法としてICT化が使われることがふさわしいと言っていた。

スマートシティ先進市の会津若松市にも1月に視察に行きアドバイスももらった。重複するが、まずは課題が何かをよく把握すること。次に解決策を検討すること。その解決策としてICT化が使えるのであれば、思いを抱く企業と住民の皆さんとの組織化、連携をして欲しいということである。その小さな成功事例を増やして、段階的に進めて欲しいと言っていた。

3月の報告でも、それが上田市の進むべき方向性としてふさわしいと提言させてもらった中で、留意点としても3つあると提言させてもらった。

一つは、官民連携体制企業や住民との話し合いをもち連携体制で進めていくことが大事。

二つ目は実施段階での運用コスト、導入面では支援策があるが運用コストがどのくらいかかるのか十分に吟味した上で進めることが大事。

三つ目はスマートシティ化を進めるのに国際的な企業ではなく地域内企業との連携を図っていくことが大事。

地域の中の企業が蚊帳の外という状態にならないようにする。

資料2の3の中では、地域内企業の方と話をしていく中で技術や設備の提供や提案をして頂いた所や相談を受けた所を中心に候補として提案している。ただ、中にはまだ新型コロナの関係で意見交換が進んでいない分野もあるので、今後、このような機会をお願いしていきたい。

(委員) 資料2の基本政策のセキュリティが一番問題だと思う。情報格差は仕方のないことだと思う。以前5年計画を立てたものが技術の進歩により3年でできた。市の広報も冊子のもの

とホームページのものがある。60代はデジタル機器も使えることや年配の方でタブレット使用している方も多いので時代に沿った方法で考えていくことが大事だと思う。

また、地域性もあると思う。公衆無線LANは観光地に行けばどこでも繋がっているし、うまく取り入れていけばいいと思う。

最近ではマイナンバーカードの機能も増え、セキュリティもしっかりしているというが、落としてしまっただけでは意味がないので、そこは注意してもらい必要がある。

また、セキュリティにおいても強すぎるとかえって使いにくいサービスになってしまうので、検討課題としたい。

さらに、情報格差についてはある程度のところで見切りをつけないと何もできない。あと10年も経てば全員がキーボードを叩ける時代になっていると思うので、上田ならではの物も検討してほしい。

(委員) 行政の推進計画策定に関わったことが無いため、説明を聞きながら委員会で何をするかを考えていた。5年間でやるべきスマートシティ化の方向性を決めるということではどうか。

策定計画を実施するとなれば予算も関わってくる。上田市にできそうなこと、関わることをあげてもらっているが、住民が求めているものなのか精査が必要である。

5年間でどの程度の所まで実現すべきなのか、できそうなものだけを提案するのが役目ではないと思うので、現状を把握したうえで目指すところを絞っていくといいと思う。

(委員) 住みたい上田市へするために、勉強もして市民としての意見を考えてまとめてみたいと考えている。

(委員) 一人のユーザーとしてこの項目が誰にとって便利になっていくのかわかりづらいものもある。高齢者の例も出たが、50代女性からみてもすごい時代になるなど考えているので、不明な点はまた問い合わせさせていただきたい。

8 その他（事務連絡）

9 閉会（中村総務部長）